

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

理事会報告・海外ニュース	1
委員会報告・うちの会社	2
2001年 洋書輸入統計(前半)	3
出版文化史逍遙(65) 洋書の歴史雑記帳(XX)	6
新年度へ向けて	7

理事会報告

1月27日(金)

1. 以下の委員会報告を了承した。

- ・東京国際ブックフェア・洋書バーゲンセールに関して、2月4日にリードエグジビションと基本条件を交渉、13日の委員会を経て現在出版社募集中である。3月5日に出展に関する説明会を開催する。(事業委員会)
- ・2003年新年賀詞交換会は今年同様プレスクラブにて1月8日(水)開催を予定している。(文化厚生委員会)

2. 2002年度定時総会(兼旅行会)開催へ向けての準備経過について事務局長より報告があった。

3. ペンギンブックス・ジャパン(株)が英国本社の方針により本年3月31日を以て閉鎖される旨、同社より通知があった。4月1日以降の動向については現時点では不明である。
4. 台北国際図書展(2月19日～25日)について新田理事、金原理事、高橋事務局長より報告があった。
5. 三洋出版貿易(株)倒産のため同社顧客の外国雑誌予約代金が回収不能となった経緯が中村理事より報告された。これにより外国雑誌予約金の前払い制度が顧客の間で問題点として浮上することが危惧されるので、業界としての対策の必要性が指摘された。

海外ニュース

◆…チョーサーのデジタル化

ガーディアン紙によると、大英図書館のBoffinsではチョーサー著『カンタベリー・テールズ』をデジタル化するプロジェクト(六ヶ月間)を開始したとのこと。この著作の初版は1476年William Caxtonにより英国で刊行され、現在12冊残っている。この版は約460万ポンドの価値がある。デジタル化作業は、このプロジェクトのスポンサーでもある慶應義塾大学のスタッフにより、窓の無い特別な部屋で行われる。デジタル化される著作には、約1,300点もの高解析画像が含まれ、それらは夏の終り頃までにはインターネット上に登場する予定である。

the Bookseller. com, FEB 26, 2002

◆…Groveの売上、Macmillan全体に貢献

Holtzbrink所有の英国出版社Macmillanの売上高は20%も上昇し、利益も40%アップだったが、これには2001年刊のGrove Dictionary of Musicが貢献している。2001年1月～12月の一年でMacmillan全体の売上高は2億5,000万ポンドから2億9,630万ポンドにまで増えた。Groveによる効果を差し引いても、売上で16%、利益で20%の上昇である。インプリントのうち、Pan Macmillanの売上も20%アップと好調で、STM出版部門の売上は16%、利益は20%アップであった。学術書出版のPalgraveについては、ヨーロッパとオーストラリアでポンド高の影響による打撃を受けたこともあり、横這いの数字だった。教育書出版部門にとっては、ブラジルの超インフレ、アルゼンチンの経済混乱、そしてジンバブエの政情不安などにより、浮き沈みの激しい一年だったが、利益で15%、売上で17%のアップという結果だった。

the Bookseller. com, FEB 20, 2002

囲碁・将棋大会 2002. 2. 8(金)

今年の囲碁大会も将棋愛好者と合同で開催された。会場は前回同様東亜ブックの3階を拝借して、10社11名の参加がありました。PM5時頃より各自対局者を選びオープン戦形式をとり、記録に残さない気楽な会にしました。仕出しの料理、弁当に舌鼓をうちながらの対局でした。囲碁、将棋のメンバーも年齢が上昇しつつありますが、今回は新進気鋭の松村氏(UPS)赤嶺氏(マイブック)の初参加で楽しい会になりました。

手の空いた者は雀卓を囲み、終電近くまで賑わいました。

第40会 麻雀大会 2002. 2. 15(金)

麻雀愛好者26名が、東京駅八重洲北口近くの雀荘(東久)に集合し、6卓を囲み定刻にプレイ開始、ポン、

チー、ロンと不況を吹き飛ばす勢いで決戦が繰り広げられました。

競技の結果は下記のとおり、毎回確実に加点された常連の和田氏(大洋交易)がダントツの優勝でした。“ここ数回連続優勝の東亜ブックさん、層の厚い丸善さんに暫く追いつく事が出来た”と御満悦のスピーチでした。毎回上位入賞の戎井氏(丸善)は今回も遠慮されたか、準優勝に留まりました。

今回の初参加は橘(UPS)、辻(UPS)、岩田(オライリーJapan)、須賀(ワタナベ流通)の各氏で、親睦の輪が広がりつつあると実感致しました。

成績：優勝 和田 茂(大洋交易) +107点

準優勝 戎井忍治(丸善) +48点

3位 広瀬敏昭(大洋交易) +44点

B B 辻 俊和(UPS) -50点

(敬称略)

幹事 村山(ゲーテ書房)記

うちの会社

阪神エアカーゴ株式会社

東京都千代田区神田佐久間町1-9

第7東ビル7F

Tel : 03-5296-1577 Fax : 03-5296-1587

URL : <http://www.hac.hanshin.co.jp>

E-mail : tycim1@hac.hanshin.co.jp

毎度ありがとうございます。阪神エアカーゴ(阪神航空)でございます。平素は大変お世話になってまして誠にありがとうございます。恐縮ですが、紙面をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

阪神電気鉄道(株)航空営業本部貨物部から阪神エアカーゴ(株)として独立して、本年10月で営業開始からまる3年が経過しますが、我が国の航空貨物輸送がスタートして今年で何年になるかご存知でしょうか？戦後間もない1947年(昭和22年)に民間貿易が再開され、パンアメリカン航空、ノースウエスト航空が東京線を開設、戦後の航空輸送がスタートし、日本に於ける航空代理店の選定が必要になりました。敗戦後の日本で、比較的経営が安定していた私鉄4社(阪神、阪急、近鉄、西鉄)と日通が1948年に代理店契約を締結して航空貨物事業がスタート

し、今年で54年になります。

弊社の基本理念

「世界の人々に生活の豊かさをもたらす国際物流事業を通じて、社会の発展に寄与する」。

経営理念

- 1)人的品質一番化による、最高の輸送サービスと顧客満足を提供する。
- 2)長期的に安定した利益を生み出し、事業規模の拡大を図る。
- 3)社員一人ひとりが、仕事を通じて人間性を向上させ、世の中に貢献できる社会人になる。

お客様とご一緒にロジスティクスのプロフェッショナルとして TOTAL LOGISTICS PROVIDERを目指します。

石渡 昇

2001年(平成13年)1月～12月の洋書輸入統計 (前編)

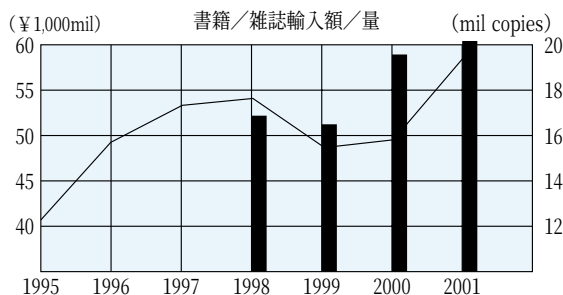
荒 木 亮 一

財務省発表の「日本貿易統計：2001年(平成13年)1月～12月」より書籍、新聞・雑誌およびその他の印刷物(第49類に含まれる品目、注1参照)の輸入額、輸出額をまとめ、洋書市場の状況を考えてみたので参考に供したい。

1. 2000年1月～12月の洋書輸入通関統計表

表1 2001年品目別輸入通関額対照表(単位 百万円)

分類	品目	00年1月～12月 輸入価額	01年1月～12月 輸入価額	前年比	構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	116	271	233.6%	0.5%
	辞典および事典	225	283	125.8%	0.5%
	その他のもの(書籍)	30,282	36,255	119.7%	60.6%
	幼児用絵本	2,567	2,435	94.9%	4.1%
	小計(1)	33,190	39,244	118.2%	65.6%
	楽譜	635	757	119.2%	1.3%
	地図／海図	518	694	134.0%	1.2%
	小計(2)	1,153	1,451	125.8%	2.4%
新聞・ 雑誌そ の他の 定期刊 行物	一週に4回以上 発行するもの	82	76	92.7%	0.1%
	雑誌その他の定期刊行物	16,460	19,049	115.7%	31.8%
	小計(3)	16,542	19,125	115.6%	32.0%
合計(1)+(3)		49,732	58,369	117.4%	97.6%
合計(1)+(2)+(3)		50,885	59,820	117.6%	100.0%



注1：第49類とは「印刷した書籍、新聞、雑誌、絵画、その他の印刷物並び手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案」である。含まれる物品、含まれない物品などについては、一部を除き詳細は省く。

注2：楽譜／地図・海図については、参考までとした。

書籍、新聞・雑誌以外のものについては、別表にまとめたので(後編)を参照されたい。

I. 書籍などの分類：

統計では、「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物(単一シートものであるかないかを問わない。)」と定義され、次の通り分類されている。(以下、「書籍」という)

- (1) 「単一シートのもの」：“単一シートのもの(折り畳んであるかないかを問わない)及びその他のもの。”である。また、美術品や図案等を複製した印刷物を集めたもの(内容に関連する文章を伴うもので、ページを入れて書籍の作成に適するようにしたものに限る。)を含む。絵又は挿絵を印刷したもの(折り丁又は単独のシートのものに限る。)で文章を伴わないものは(表9)の[その他の印刷物](各項目の「その他のもの」と異なる)に属する。
- (2) 「辞典及び事典」：(シリーズの形式で発行するものを含む。)
- (3) 「その他のもの」とは(1)、(2)を除く印刷物で、学術書、教科書、文学書、書籍に補足として付属する絵画(書籍とともに提示するものに限る)などである。
- (4) 「幼児用絵本」とは、絵が主体で、文章が副次的な幼児用の絵本及び習画本をいう。
- (5) 「楽譜」、「地図・海図」などについては、別表を参照されたい。

II. 新聞・雑誌などの分類：(以下、雑誌、という。)

新聞、雑誌その他の定期刊行物(挿絵を有するか有しないか又は広告を含んでいるかないかを問わない。): 次の通りに分ける。

- (1) 1週に4回以上発行するもの(日刊紙など。)
- (2) その他のもの(週刊、月刊／旬刊のジャーナルなど。)

注3：書籍、雑誌の通関時期／基準は、従来通りであるとのことである。

Airmail/Surface mailで輸入される書籍は、原則

として、入荷月の翌月15日までに通関の届出が行われるので、統計上は1ヶ月遅れ。Aircargo/SALやDHLのような業者経由の輸入は、到着の都度通関の手続きを経るので、統計上にほとんど遅れはない。

年間購読の雑誌は、Airmail/Surface mailで購読者に直送されるものは、最終号が購読者に到着したと認められる時点において通関の届出がなされるので、統計上、初号入荷時より約1年遅れが大勢を占める。Aircargo/SAL扱いのものは、書籍と同様に遅れはない。

関税の基準は“CIF”または“C&F”である。また、輸入原価が20万円以下(1社/月)の小額貨物については、通関手続きが免除されているので、統計には含まれていない。

<考察> 書籍/雑誌輸入の2001年は、「絶対値」でみる限りでは堅実な伸びを示している。前年比で約17%増、また、数量でも前年比で約9%増である。平均単価(原価)でみると、前年比が書籍の約6%高、雑誌の約12%高で、書籍が全体の2/3を占めることから、平均約8%の原価の上昇が考えられる。以上から、多少の売り上げ増につながった向きもあるのではないだろうか。しかし、一方、年間の為替相場は概ね円安展開となり、3主要通貨を加重平均で算出した概算でみると、「円/ドル」の前年比12%、「円/ユーロ」9%、「円/ポンド」7%の円安であった。輸入額をベースに推定した決済通貨の率は、「米ドル」38.8%、「英ポンド」19.7%、「ユーロ」15.6%で、加えて、シンガポールと香港の輸入率の合計16.2%を「米ドル」と想定すると、3主要通貨の総計90.3%となり、円安の影響が利益面にもたらした厳しい状況を容易に想像できる。

ヨーロッパの通貨統合により、1999年1月から「ユーロ」が計算単位として導入されて3年、今年、2002年1月、にユーロ紙幣やコインへの交換が行われ、旧通貨は約半年後の6月には姿を消すことになった。EU15カ国中、ユーロ参加国は12カ国(1999年には11カ国)で、次の通りである〔()内は旧通貨〕：アイルランド(ポンド)、オランダ(ギルダー)、ベルギー(フラン)、ルクセンブルグ(フラン)、フランス(フラン)、ドイツ(マルク)、ポルトガル(エスクード)、スペイン(ペセタ)、イタリア(リラ)、フィンランド(マルッカ)、オーストリア(シリング)、ギリシャ(ドラクマ)。

銀行筋の「為替相場」見通しでは、日本経済が悲観

視されるなか円の先安感が強まっており、対米ドル、対ユーロ共に円安が進みそうである。為替レートの変動が著しい昨今なので、円高/円安のウェイトによる増減を把握しておく必要がありそうである。1999年は円安、2000年は円高、2001年は円安。そのなかで、書籍・雑誌ともにまずまずと言えるかも知れない。「洋書が売れる」ということは、健全な社会情勢を物語っていると信じ、ますますの繁栄を期待したい。

2. 最近10年間の推移

表2 10年間の輸入通関額対照表(単位 百万円)

暦年	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1992	26,597	98%	100	19,360	134%	100	45,957	111%	100
1993	24,109	91%	91	15,928	82%	82	40,037	87%	87
1994	23,924	99%	90	16,023	101%	83	39,947	100%	87
1995	24,520	102%	92	17,418	109%	90	41,938	105%	91
1996	29,399	120%	111	19,844	114%	102	49,243	117%	107
1997	35,453	121%	133	18,220	92%	94	53,673	109%	117
1998	35,253	99%	133	19,056	105%	98	54,309	101%	118
1999	31,151	88%	117	18,029	95%	93	49,180	91%	107
2000	33,190	107%	125	16,542	92%	85	49,732	101%	108
2001	39,244	118%	148	19,125	116%	99	58,369	117%	127

表2の別表 品目別輸入「数量」対照表(単位 冊)

品目	輸入された「数量」					
	2000	2001	前年比	2000年平均単価	2001年平均単価	平均単価前年比
(書籍)						
単一シートのもの	159,656	139,841	88%	¥727	¥1,938	267%
辞典および事典	167,572	190,028	113%	¥1,343	¥1,489	111%
書籍など	11,604,424	12,967,650	112%	¥2,610	¥2,790	107%
幼児用絵本	1,932,659	2,172,800	112%	¥1,328	¥1,121	84%
合計	13,864,311	15,470,319	112%	¥2,394	¥2,537	106%
(新聞・雑誌)						
一週に4回以上発行するもの	61,153	56,680	93%	¥1,341	¥1,341	100%
新聞・雑誌その他の定期刊行物	4,788,746	4,958,154	104%	¥3,437	¥3,842	112%
合計	4,849,899	5,014,834	103%	¥3,411	¥3,814	112%
Grand Total	18,714,210	20,485,153	109%	¥2,657	¥2,849	107%

注1：前回より、「指数」をレポートする最初の年度を“100”として、輸入額の推移を画いている。

注2：従来通り、書籍、新聞・雑誌のみの数値である

(地図・海図を含まない)。

＜考察＞ 今回も、「輸入額」と「輸入数量」を対応させた。ノーマルな原価の上昇率を(4%/年)と仮定すると、10年間では12%ほどしか伸びてないことになるが、しかし、輸入額の前年比では、書籍18%増、雑誌16%増。また、数量で、書籍、幼児絵本が12%増。辞典/事典は13%増と若干の回復をみせた。雑誌は3%と微増ではあるが、これも安定感がある。

3. 主要国別(11カ国)輸入通関統計

表3 主要国別輸入通関額対照表(単位 百万円)

国名	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
米	14,497	118%	37%	8,144	129%	43%	22,641	122%	39%
英	7,370	105%	19%	4,130	90%	22%	11,500	99%	20%
オランダ	1,079	110%	3%	3,029	134%	16%	4,108	126%	7%
独	1,796	102%	5%	1,191	110%	6%	2,987	105%	5%
仏	695	111%	2%	364	88%	2%	1,059	102%	2%
スイス	306	95%	1%	156	100%	1%	462	97%	1%
シンガポール	6,250	153%	16%	359	297%	2%	6,609	157%	11%
香港	2,469	126%	6%	397	118%	2%	2,866	125%	5%
中国	1,885	148%	5%	130	99%	1%	2,016	143%	3%
韓国	426	80%	1%	196	93%	1%	622	84%	1%
イタリー	284	55%	1%	299	114%	2%	583	75%	1%
小計	37,057	118%	94%	18,395	116%	96%	55,452	117%	95%
その他の国	2,187	121%	6%	730	114%	4%	2,917	119%	5%
計	39,244	118%	100%	19,125	116%	100%	58,369	117%	100%

表3の別表 2001年までの輸入通関額の推移(単位 1,000百万円)

品名	USA	UK	EURO圏	Singap+HK	その他の国	合計
書籍	15	7	4	9	4	39
雑誌	8	4	5	1	1	19
合計	23	11	9	10	5	58
構成比	40%	19%	16%	17%	9%	100%

＜考察＞ 2001年度は、第1グループとして11カ国を挙げた。別表を追加して、(シンガポール+香港)がますますそれらの立地条件や社会環境からその重要度を高めていることを示した。順位では、米、英、シンガポール、オランダ、独、香港と並ぶ。シンガポールでは、日本を含む主要国(米、英、オランダ、など)の現地法人の事業が「安い労働力(?)と優秀な印刷技術」

を以てますます拡大しているであろう。

4. マイクロフィルムの輸入通関統計

表4 2001年までの輸入通関額の推移(単位 百万円)

品名	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	前年比	94:01
マイクロフィルム	524	527	614	551	528	421	431	431	102.78%	84.54%

注：写真用のプレート及びフィルム(露光し、かつ、現像したものに限るものとし、映画用フィルムは除く。。「オフセット用のもの」、「マイクロフィルム」と「その他のもの」に分類され、「マイクロフィルム」のみの輸入額である。

＜考察＞ 1999年は前年比で約20%の減少であったが、2000年は円高にも拘らず前年比で2%の微増。2001年は3%と増加が続いた。しかし、文献やデータの整理、検索にも、スピードで優るCD-ROMの利用度が高そうだ。

5. “CD-ROM”の輸入通関統計

表5 2001年までの輸入通関額の推移(単位 百万円)

品名	1996	1997	1998	1999	2000	2001	前年比	96:01
(CD-ROM1)	20,355	31,700	27,565	38,283	47,584	53,252	111.9%	261.6%
(CD-ROM2)	～	～	～	5,552	9,948	13,078	131.5%	～
計	20,355	31,700	27,565	43,835	57,532	66,330	115.3%	325.9%

注：「レーザー読み出しシステム用のディスク」

(1)音声及び画像以外の記録の再生用のもの(For reproducing phenomena, other than sound or image)。

(2)その他のもの(除く：音声のみの再生用のもの)

＜考察＞ 毎年継続して輸入量の増加が著しい。2001年は前年比で15%増加である。(1)、(2)の数値が確認されてから2年目の2000年には、{書籍+雑誌}の輸入合計額を16%超えた。2001年も同様には14%超である。教育用、学習用、辞書・事典、ジャーナルや情報のCD化などなど、ますますその市場を拡大している。

(後編につづく)

洋書の歴史雑記帳〔XX〕高野長英と洋書(1)

鈴木 陽 二

◆洋学者への道

吉村昭『長英逃亡』を読んで、高野長英のたどった凄絶な生涯に暗澹とした気持ちにさせられた。しかし、当代随一といわれたオランダ語の力を持ち、西洋の先進的学術に造詣の深い天才の人物でありながら、悲劇的な一生を歩まざるを得なかった経緯はここでは触れない。彼は47歳で自刃するまでに多くの蘭書を読破し翻訳したが、その跡をたどることによりこの時代の代表的な洋書を浮き彫りにすることができる。その辺を少し探って見ることにしよう。

長英は1804年(文化元年)に、奥州水沢に生まれた。水沢は、仙台伊達家の一門留守氏が領治した城下町で、今でもそこここに武家屋敷や古い商家が見られるひっそりとした地方都市だが、江戸時代には文化的雰囲気包まれた城市だった。

彼は17歳のおり無尽講のくじで当たった15両を資金に江戸に上り、『解体新書』の翻訳者杉田玄白の養嗣子伯元の塾に入門したが、その後、加賀藩医吉田長淑の蘭塾堂に入門し内弟子になった。外科が中心の蘭方の中で長淑は数少ない内科の蘭方医で、イギリスの医者 John Huxham の“Essay on Fever”のオランダ語訳から重訳して『泰西熱病論』12巻(1814＝文化11年)を著し、また『内科解環』15巻、『蘭葉鏡原』50巻などの翻訳を手掛け、蘭方医界に重きをなした。

優れた才能を持つ長英はすぐに師長淑に認められ、長の字を師から与えられ、それまで名乗っていた卿齋を長英と改めた。長英がオランダ語文法の修練を始めたのはこの蘭塾堂時代だったし、これ以降オランダ語にのめり込み蘭書の翻訳に執念を燃やし続けたのは、この時代に素地が作られたということだろう。その頃、長崎出島のオランダ商館付医師としてシーボルトが赴任し、鳴滝塾で西洋医学の教授を始めたが、それを知った長英は長崎留学を決意した。こうして長英はシーボルトに入門を許されたものの、生活に困っていたところ、知人の紹介で平戸藩主松浦侯の所蔵する蘭書の翻訳の職を得て、藩主の庇護を受けることになった。

膨大な『甲子夜話』(正統3編278巻、武家社会や庶民風俗の見聞録で重要な資料)の著作で知られた松浦静山侯はこのとき既に隠居していたが、彼が長崎の通詞などから入手した多くの洋書を所蔵し、海外事情

通として知られていた。平戸邸には「楽歳堂」、江戸藩邸には「感恩齋」という文庫(図書室)を有して、両文庫で和漢洋図書4,862部33,739冊が所蔵されたという。松田清先生の研究によると松浦静山旧蔵洋書は66部163冊が記録に見られ、うち61部141冊が現存しているという(松田清「松浦静山旧蔵洋書書誌」「平戸藩楽歳堂洋書の研究」「洋学の書誌的研究」)。江戸時代平戸は開港地ではなかったにしても、かつてポルトガル船が来航し、オランダ商館やイギリス商館が設けられた重要な貿易港だった歴史を持ち、外向きの気風が濃厚に残存していたものだったろうか。ともあれ、長英はそれらの多くの洋書に接する僥倖を得たのだが、その中で特に化学に興味を持って「シケイキュンデ」(化学という意味、原題不明)20冊を一年かけて翻訳したという。

シーボルト門下での長英は「学問も識量もともに同輩を抜きて優れ」ていたことで、翻訳の教授などを務めた(呉秀三『シーボルト先生』)。シーボルトは彼の日本研究の一手法として、門人たちに日本の事物に関するオランダ語論文の提出を求めたが、長英が提出したのは門人中最も多く、16種にのぼっている。入門の翌年に書いて提出した『鯨ならびに捕鯨について』によって師からドクトルの免許を与えられた。

シーボルトの帰国に伴う国禁資料の持ち出しでシーボルト事件が起きるや、長英は連座の危険を感じていち早く身を隠したが、それまでの在崎3年ほどの間に師に提出した論文以外に手掛けた翻訳は、上述のシケイキュンデ(『分離術』)と、同門の岡研介との共訳で『蘭説養生録』全3冊(文政10年)だったが、後者はフーフェラント(Christoph Wilhelm Hufeland)の“Encheiridon medicum”との想定もある(高野長運)。フーフェラントはヨーロッパであまねく知られたドイツの名医で、プロシャ王の侍医やベルリン大学教授などの重職を担い、ゲーテやシラーなども診察したという。この本は日本の医学に大きな影響を与え、江戸時代幾度も翻訳が行われた。〔参考文献：高野長運『高野長英傳』／鶴見俊輔『高野長英』／呉秀三『シーボルト先生』／佐藤昌介『高野長英』／同「渡辺崋山と高野長英」『日本思想体系』55〕

(元丸善・本の図書館長)

まだ3月なのに関東地方も異常に早く桜が満開になった。4月から始まる新年度への準備や企画などが慌ただしく進められる時期になった。

本年度を振り返ると時代精神は必ずしも明るいものではなかった。この時期だからこそ新年度は何か明るいことを期待する気持ちが強くなる。しかし、期待だけが優先して、その基盤になるものがぐらついていれば途中で挫折してしまう危険が大きい。今高校生の悩みは、教科の中でも特に英語の学習のことらしい。ELEC同友会の副会長平野靖雄氏はご著書『高校英語教育の現場から一生徒のうめき声から学ぶもの』（桐原書店）には生徒各自が率直に心情を述べた「私の英語(学習)史」が多く載せてあり、その中から彼らの悩み事を読みとることができる。それらを読むと教師だけでなく親も力になってやりたい、またやれることがあるのではないかと思う。

同書によると、教室で英語らしい発音をすると「アイツなに気取っているんだよ」とクラスの仲間に言われるのがオチであるので、わざと日本語式に音読してしまうそうである[35頁]。しかし、一方では、英語圏での生活をしてみて、英語の学習で何が大切かを実感し、帰国後それを日本人の仲間たちに伝えようとする愛国心のあるものもある。その生徒は次のように語る。

「まず native speaker と英語で会話するときには発音が悪いとなかなか通じないことだ。アクセントの位置、thの発音、LとRの区別だけはしなければならなかったと思った。…またカナダで僕が使った言葉のほとんどは日本では習わなかったことだ。相手に“Sorry”などと謝られた時に“it's OK”と決まり文句のようにいう言葉はまず日本では習っていない。You are welcome.は習ったが、Thank you.と言われたとき、必ずとっていいほど使うということは習わなかった…」

(同書44頁)

この中で、LとRの区別は筆者の関係した中学英語検定教科書でも取り上げた。ドラえもんストーリーに出てくるノビ太君がLとRを間違えて、wrongをlongに聞き間違えてしまう話から、A little language

goes a long way.(その土地のことばを少しでも覚えているととても役に立つ)とA little language goes a wrong way.(外国語を生半可に覚えていると失敗してしまう)と正反対の意味になることを提示したが、4年ごとの教科書改訂でこの部分は無くなってしまった。新しく4月から使われる筆者の関係したテキストには、I bought this bicycle at the flea market.(この自転車を蚤の市で買った)の文があり、free market(自由な市場)と発音を区別することを学習者は教わる。もし、ALTがモデルの発音を聞かせればLとRの区別ができるようになると考えているのであればそれは誤りだろう。発音器官の説明と視覚認識も伴わなければならない。

筆者はカタカナでLとRの区別ができないかという課題がようやく自分なりに解けたので、丸善から出版した拙著『カタカナで完全マスター英会話一甞る日本人の英語発音「近似カナ」で』で明らかにした。すなわち、flea/freeの区別に関しては、まず、f/vをウ/ヴで区別し、fleaは「**ウ**フリー」とし、freeは「**ウ**ワイ」とすることで識別した。上付きの小さい「^ス」は音節を増やさずに舌先を歯茎につける手がかりになる。また、「ウイ」は舌先を口蓋につけないでrを出しやすくする。しかし、カタカナをいかに工夫しても英語の発音は書き表せないと思っている人にはIPA+の表記法で/fli:/と/fwi:/のように示すことにした。同様に、tryは「チュアイ」か [tʃwái]、dryは「デュアイ」か [dʒwái] で示される。このように子音連結含め、近似カナで英語の発音の特徴がすべて表せるとなれば英語学習者へ自信をつけることになると思っている。

新年度を迎え、英語教育の分野でも新しい動きを大いに期待したいものである。少なくとも今の高校生がもっと教科に興味をもって積極的に取り組んでもらいたいと思う。教える側も、自然と文明進歩との共生のような興味深い教材を取り上げるべきであろう。

(茨城キリスト教大学教授)

新年度へ向けて

島岡 丘

Coming April 2002!

The McGraw-Hill Encyclopedia of Science & Technology, 9/e

Special Prepublication Offer Save \$300!

Prepublication price \$2,195

through 6/30/02, \$2,495 thereafter

ISBN: 0-07-913665-6

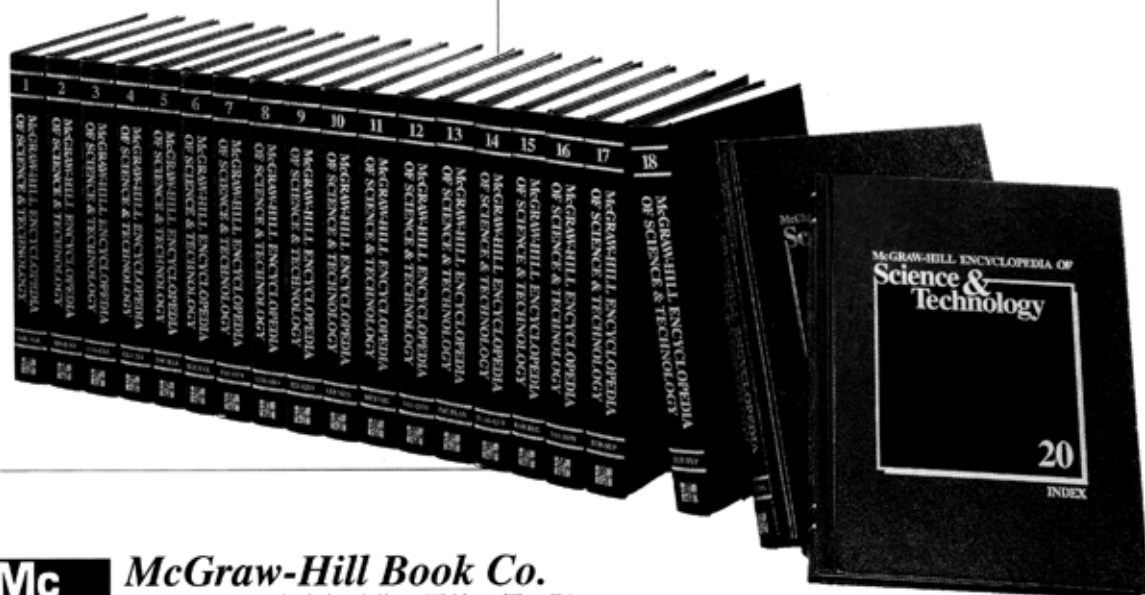
8-1/2 x 11 • 20 volumes

15,600 pages • 12,000 illustrations

"No one has been able to duplicate this essential reference work. It is THE recommended multivolume encyclopedia for science and technology and should be in most high-school, public, academic, and appropriate special libraries"
—Booklist

What's NEW in the Ninth Edition

- 7,500 articles covering 97 fields of science
- Hundreds of new contributors from around the world, more than 9,000 in all, including 25 Nobel Prize winners
- Extensively revised bibliographies for further study
- More than 12,000 digitally prepared illustrations, 16% brand new
- Study Guides, a Topical Index, and a 500+ page Analytical Index for fast access to information



**Mc
Graw
Hill**

McGraw-Hill Book Co.

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-12-3

Tel. 03-5298-7221 Fax. 03-5298-7224

Email: info@mcgraw-hill.co.jp

A Division of The McGraw-Hill Companies



日本洋書協会会報 vol.36 No.3(通算418号) 発行日2002年3月25日 編集者 高橋 紘

発行所 日本洋書協会 〒103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4-20 TEL 03-3271-6901 FAX 03-3271-6920

URL: http://www.jaip.gr.jp E-mail: jaip@maruzen.ne.jp